

脱炭素型の暮らしを作っていくこと

『1.5°Cのライフスタイル—脱炭素型の暮らしを実現する選択肢—』

渡部厚志 IGES持続可能な消費と生産領域プログラムディレクター
小嶋公史 IGES関西リサーチセンター長
浅川賢司 IGES都市タスクフォース主任研究員
劉晨 IGES持続可能な消費と生産領域主任研究員

私たちのくらしと
カーボンフットプリント

カーボンフットプリント



カーボン・フットプリント

購入する製品やサービスの製造・流通・廃棄等、サプライチェーンにおける間接排出を含めたライフサイクルにおける温室効果ガス排出

例: オレンジジュース1缶



合計
123g



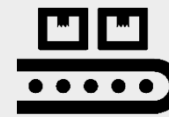
捨てる・リサイクルする
12.1g



家で冷蔵する
18.5g



製品を運ぶ
43.1g



製品を作る
30.8g



原材料を調達する
30.8g

出典：経済産業省「カーボンフットプリントガイドブック2009-2011」

日本のカーボンフットプリント



食



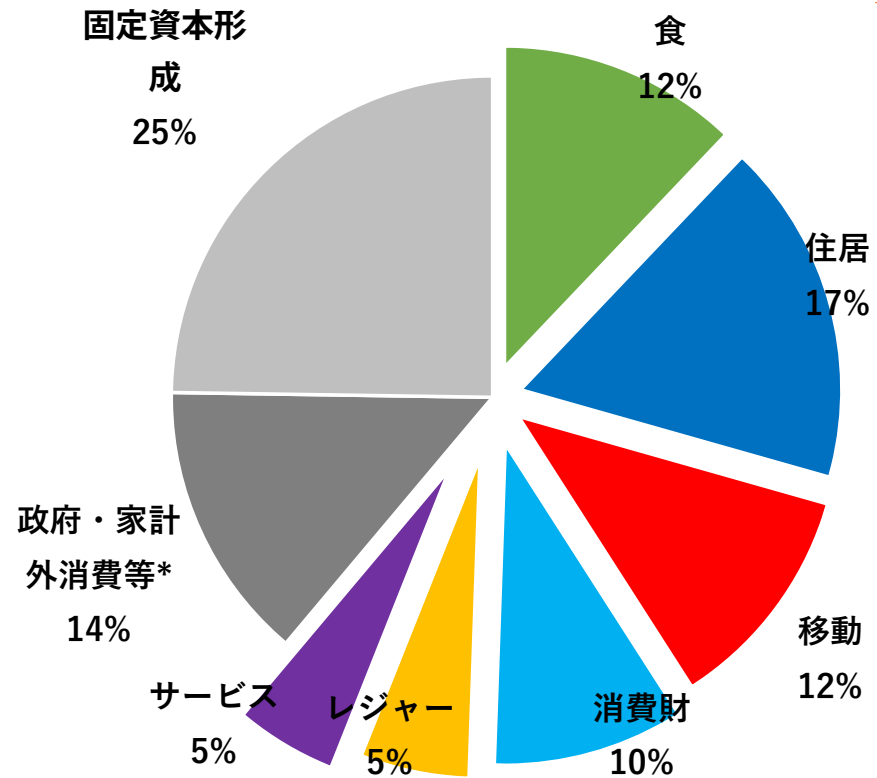
住居



移動



消費財



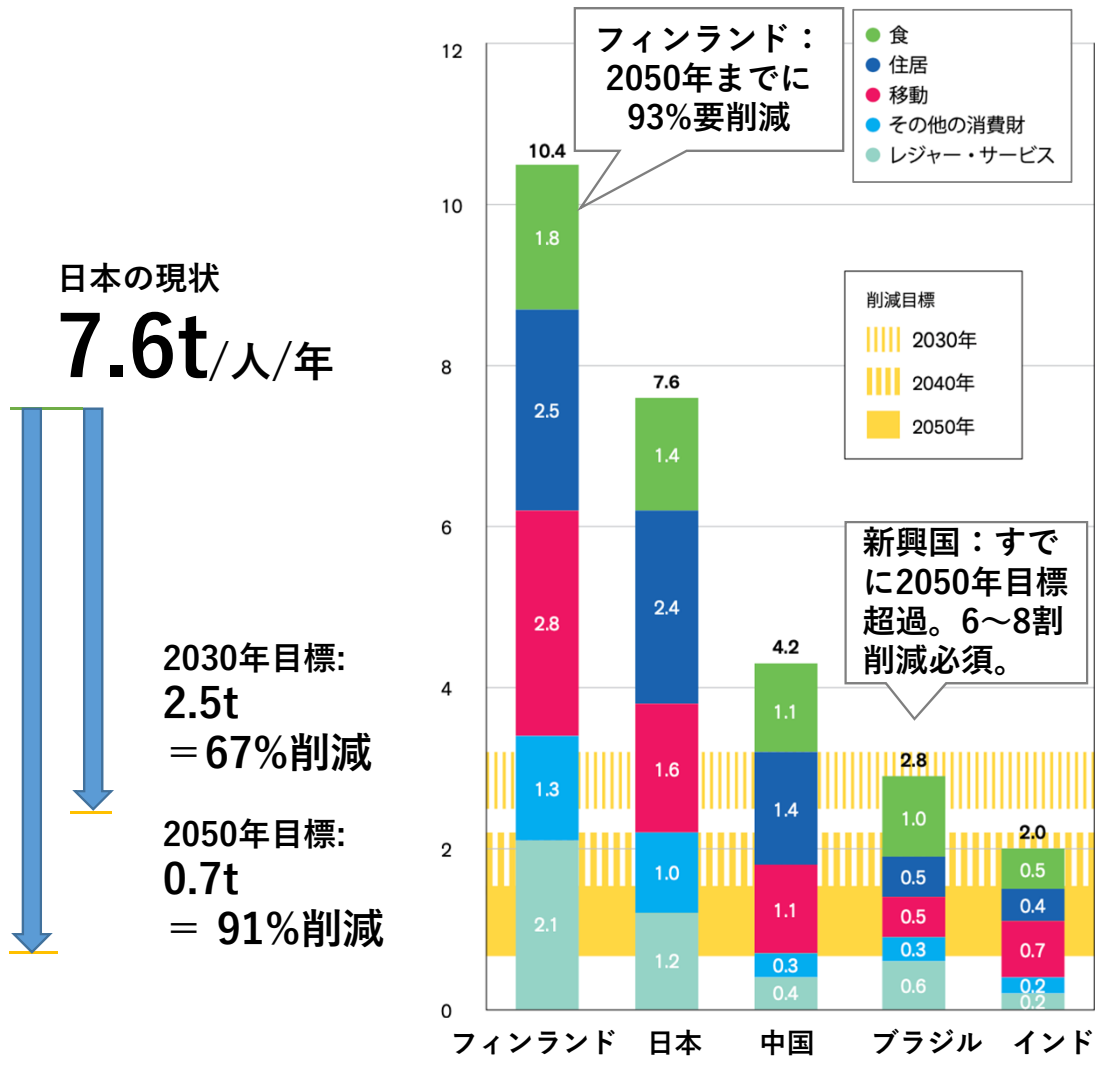
家計消費が61%

一人あたり
7.6t/年

*政府・家計外・非営利団体消費・在庫純増の合計

出所:南斉規介 (2019) 産業連関表による環境負荷原単位データブック(3EID) 国立環境研究所; Nansai et al. (2020) Carbon footprint of Japanese health care services from 2011 to 2015. Resources, Conservation & Recycling, 152.; 総務省(2015) 平成27年産業連関表に基づき発表者作成

現状のカーボンフットプリントと1.5°C目標

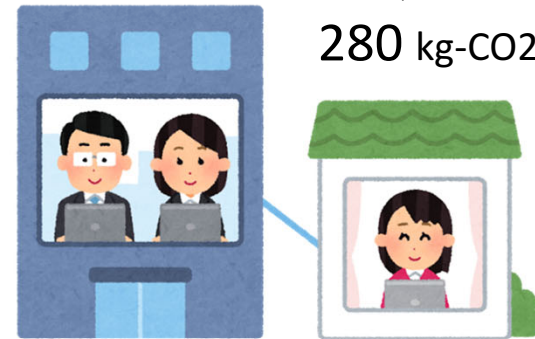


出典：IGES (2020) 「1.5°Cライフスタイル —脱炭素型の暮らしを実現する選択肢—」

移動を控えめに/特に自動車での移動を減らす



マイカーから電車へ
205 kg-CO₂の削減



テレワーク
280 kg-CO₂の削減



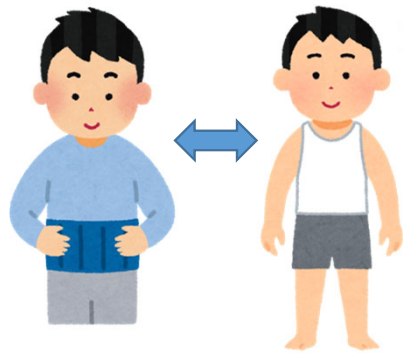
マイカーから自転車へ
222 kg-CO₂の削減

まとめ買い
145 kg-CO₂の削減



出典：さ・え・ら書房2021
「はかって、へらそうCO₂ 1.5°C大作戦②へらす編」

冷暖房を効率よく／エネルギーを見直す



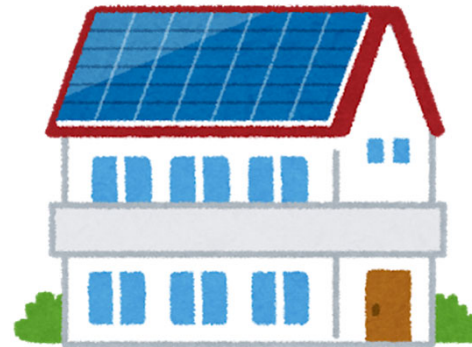
服装で温度調節
113 kg-CO₂の削減



冷暖房の部屋に集まる
236 kg-CO₂の削減



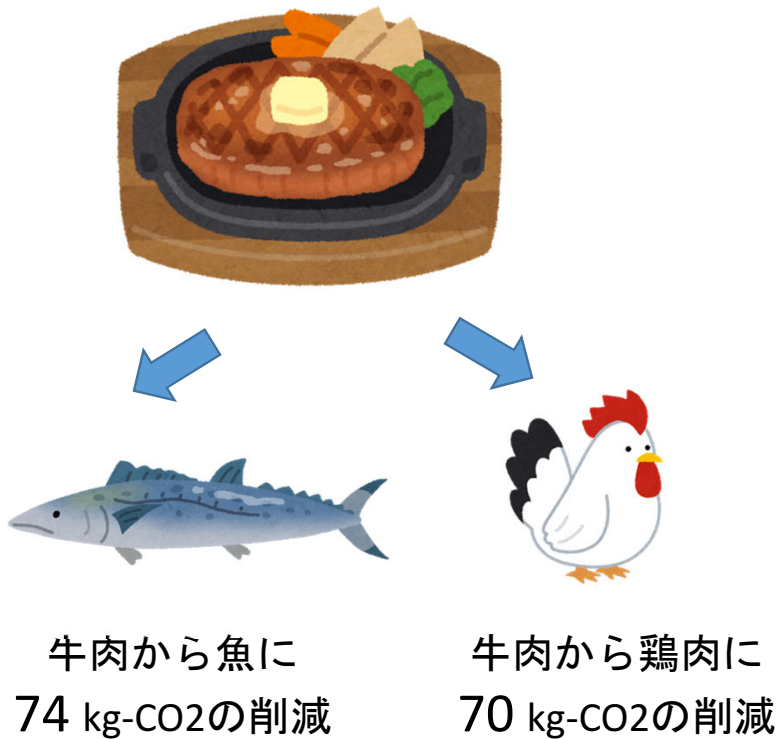
100%再生可能
エネルギー電力に
1232 kg-CO₂
の削減



屋上太陽光パネル
1275 kg-CO₂の削減

出典： さ・え・ら書房2021
「はかって、へらそうCO₂ 1.5°C大作戦②へらす編」

食事を見直す



食品廃棄を減らす
37 kg-CO₂の削減



ハウス栽培の野菜に換え
露地野菜を食べる
36 kg-CO₂の削減

地元の野菜を食べる
8 kg-CO₂の削減

ものを大切に長く使う



服を大切に長く着る
194 kg-CO₂の削減



家具を大切に長く使う
29 kg-CO₂の削減



趣味用品を大切に長く使う
113 kg-CO₂の削減

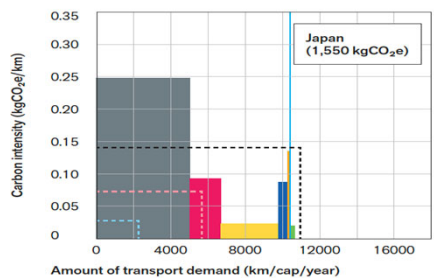
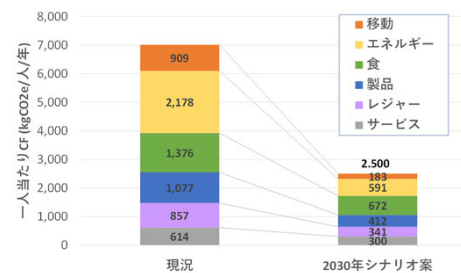
カーボンフットプリント
の少ないくらしを
地域で考える

ワークショップ & 家庭実験

WS素材開発



都市シナリオ作成



フットプリント推計



家庭実験

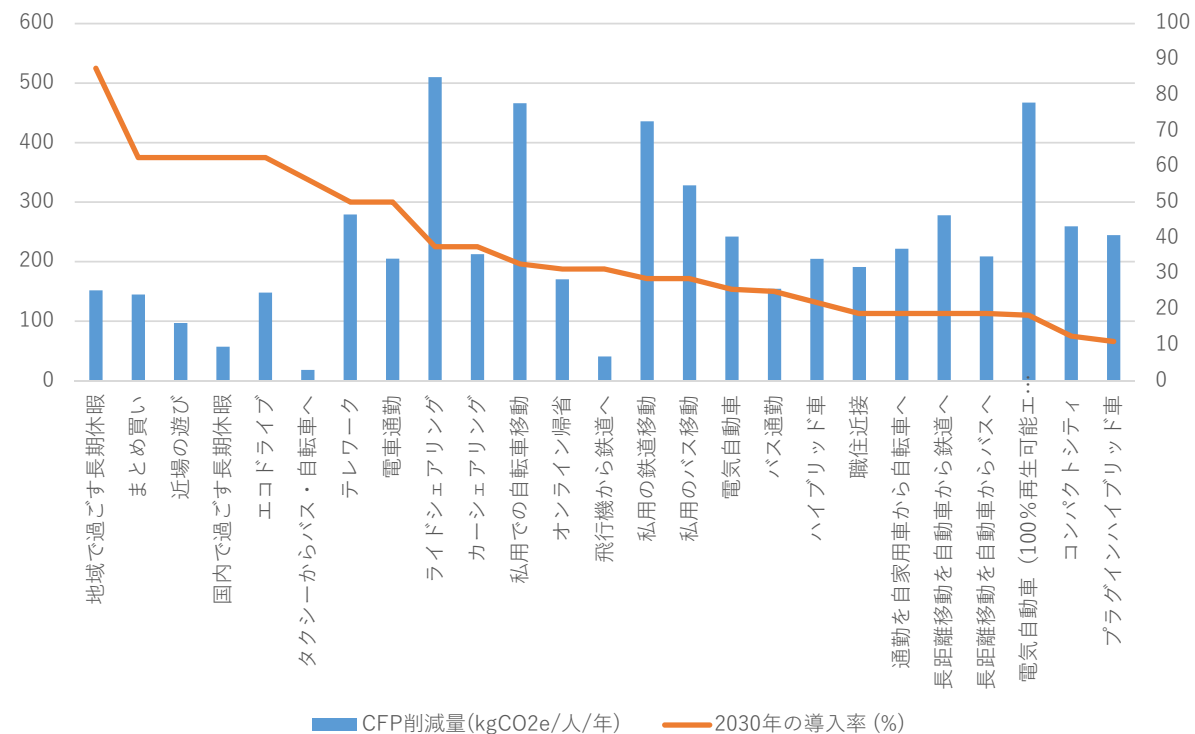


A stylized, light gray silhouette of the Yokohama city skyline is centered in the background. It features several prominent buildings, including a tall, slender skyscraper on the left and a large, rounded structure on the right. A Ferris wheel is also visible in the middle ground. The skyline is set against a white background with a green horizontal bar at the top and bottom.

横浜市のワークショップ

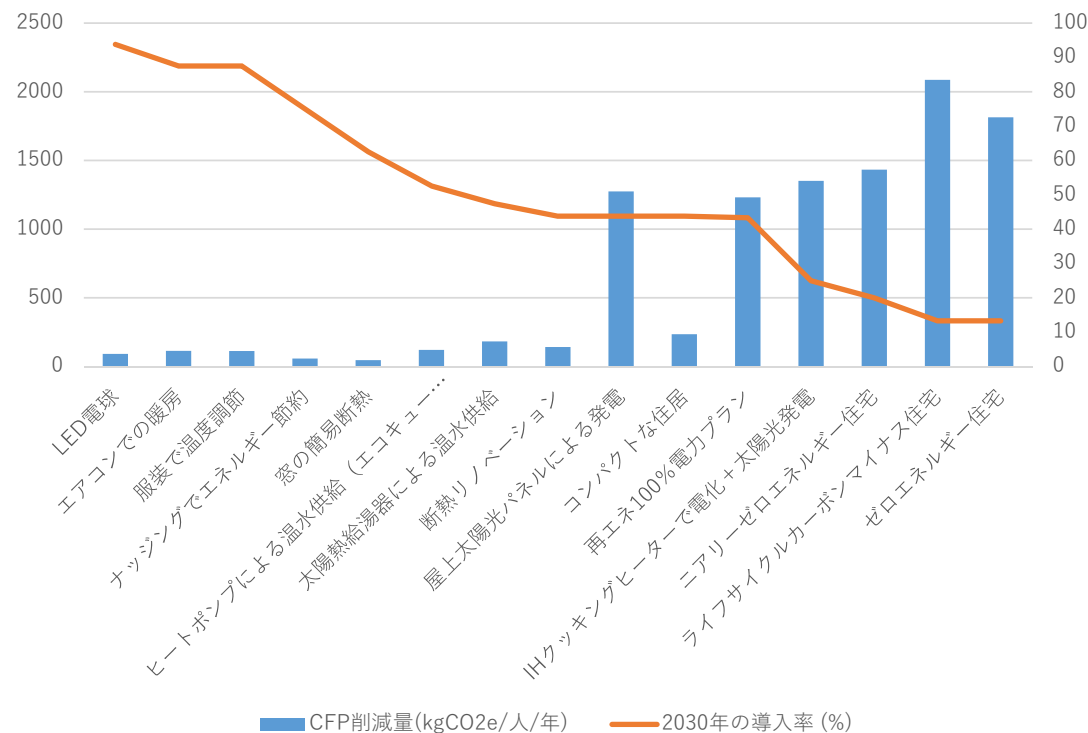
ワークショップ参加者が考える 「2030年 横浜」の脱炭素ライフスタイル（移動）

- ✓ 補助金等の支援策を前提に
「2030年の横浜全体での導入率」を予想
- ✓ 90%の人が地域で休暇を過ごす
- ✓ 50%近くがライドシェアやカーシェアを利用
- ✓ 50%がバス・鉄道で通勤
- ✓ 電気自動車は25%程度普及



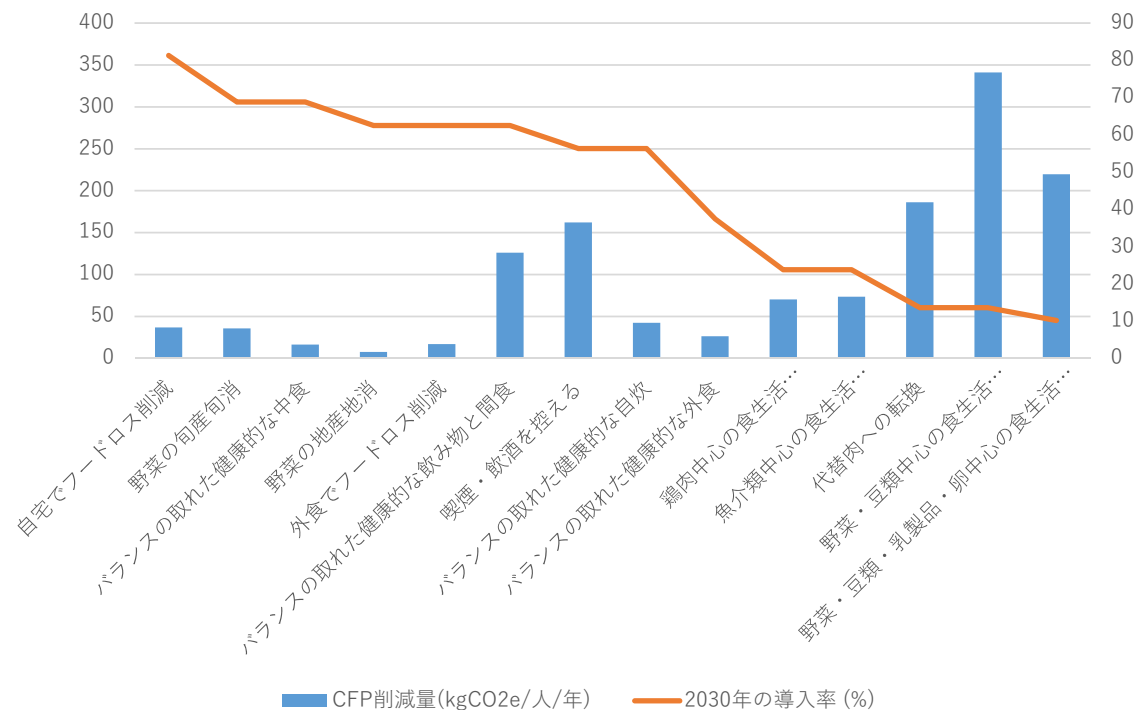
ワークショップ参加者が考える 「2030年 横浜」の脱炭素ライフスタイル（住宅）

- ✓ LED照明、衣服による温度調節等は普及
 - ✓ 100%再エネ由来の系統電力は45%
 - ✓ 40%程度に太陽光発電、太陽熱温水
 - ✓ ゼロ・マイナスエネルギー住宅の普及は遅れる
- …費用、知識などが課題

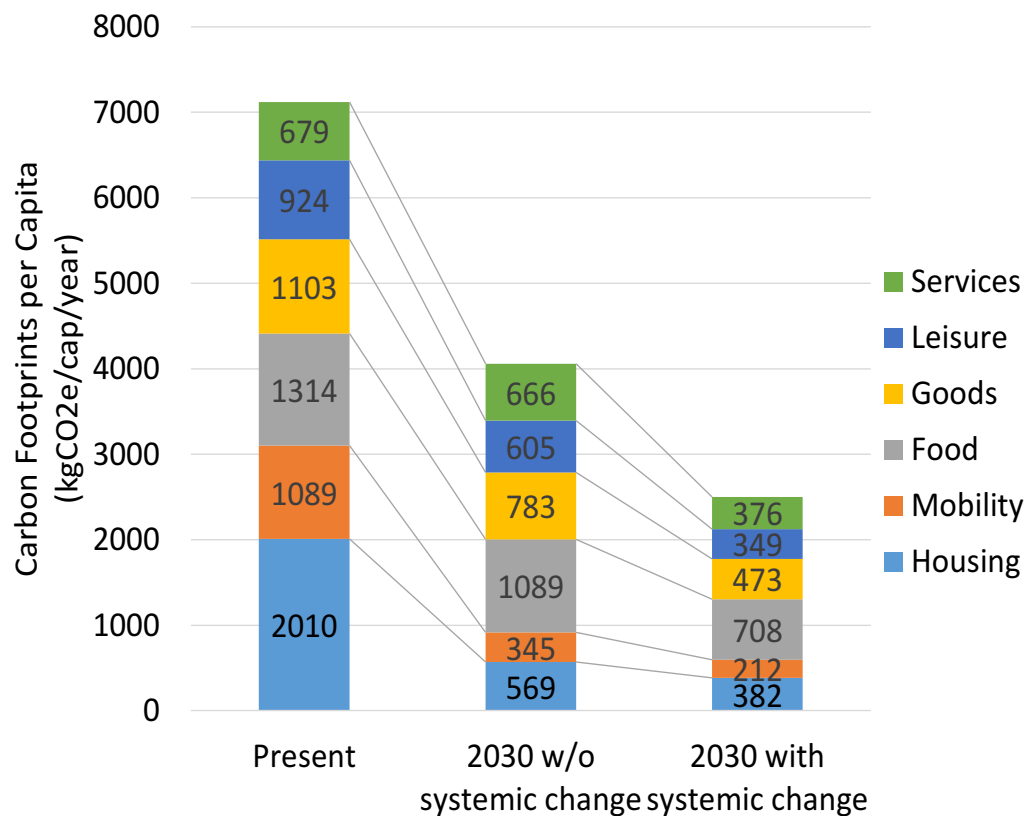


ワークショップ参加者が考える 「2030年 横浜」の脱炭素ライフスタイル（食）

- ✓ 家庭や外食での食品ロス削減は進むと予想
- ✓ 旬の地元野菜の購入が進む
- ✓ 健康的な食生活は導入しやすい
- ✓ 代替肉への転換や菜食の導入は難しい



ワークショップ参加者が考える 「2030年 横浜」の脱炭素ライフスタイル (CFP)



2030年： **3,931 kgCO₂e**

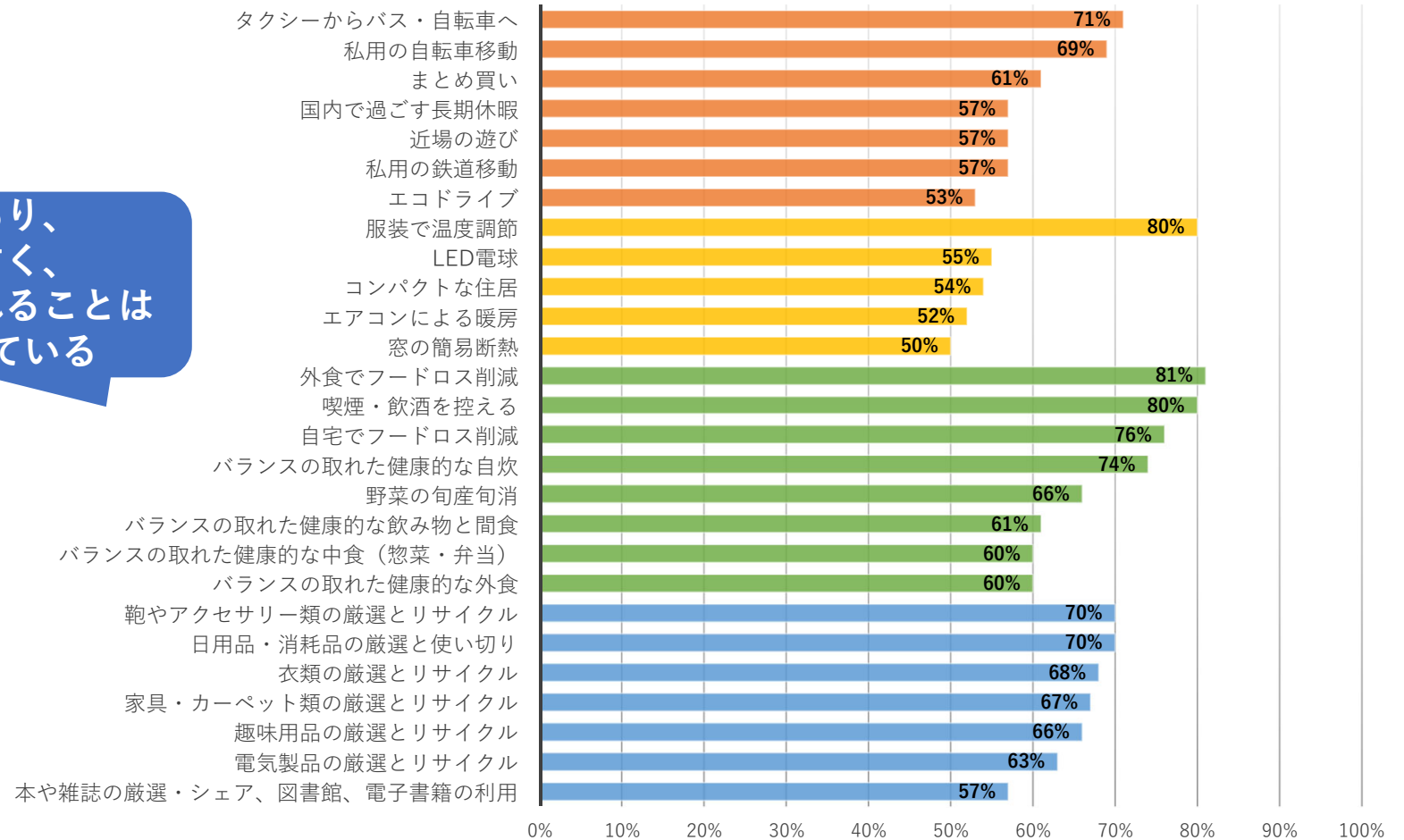
2030年： **2,500kgCO₂e** の実現には
技術改良による効率改善（毎年3%） &
再生可能エネルギー45% が必要

もうやっていること
やってみたらできたこと
すぐには難しいこと

過去1年の取り組み（WS前アンケートより）

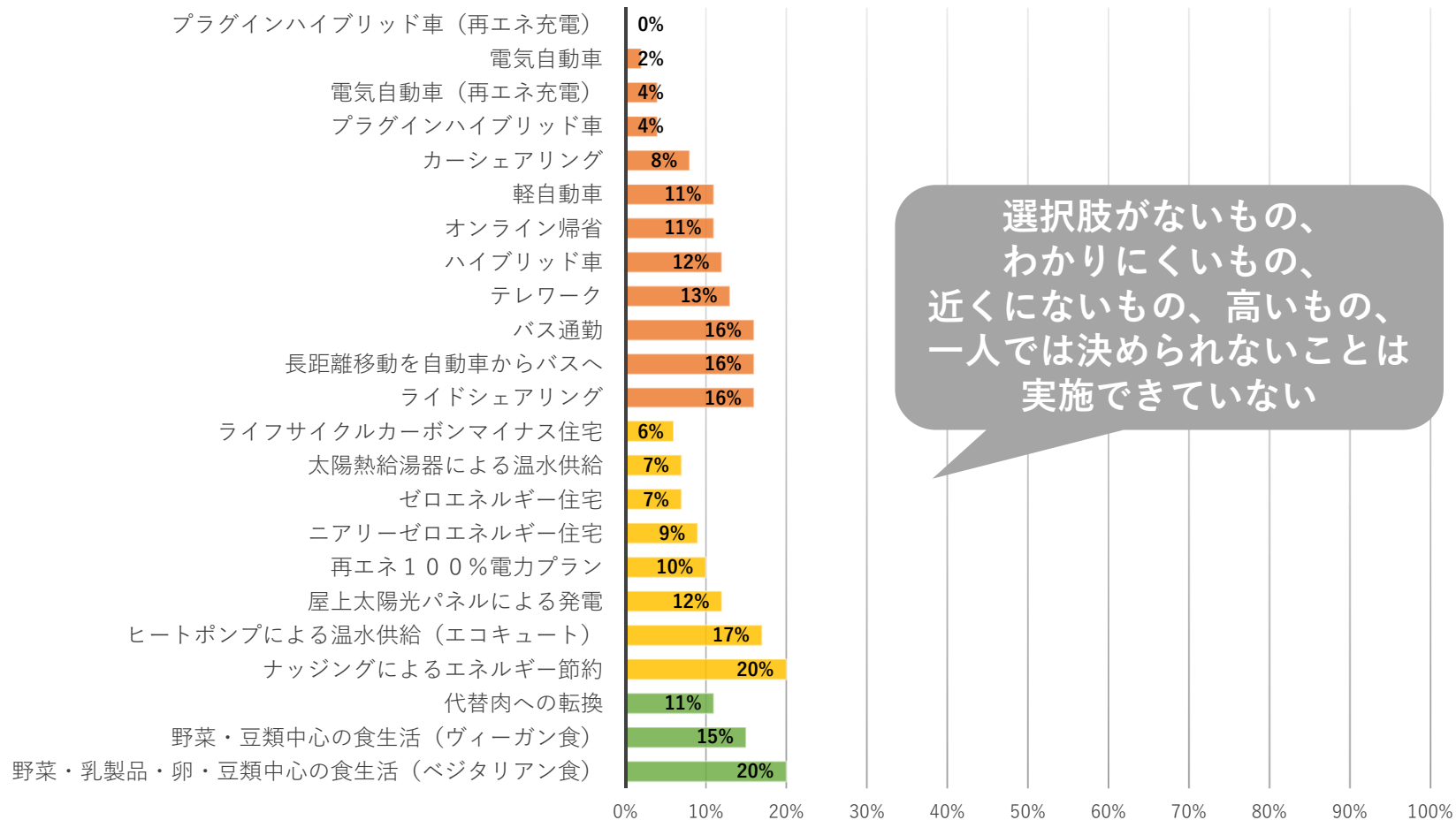
できて
いること

選択肢があり、
わかりやすく、
一人で決められることは
もう実施している



できていないこと

過去1年の取り組み（WS前アンケートより）

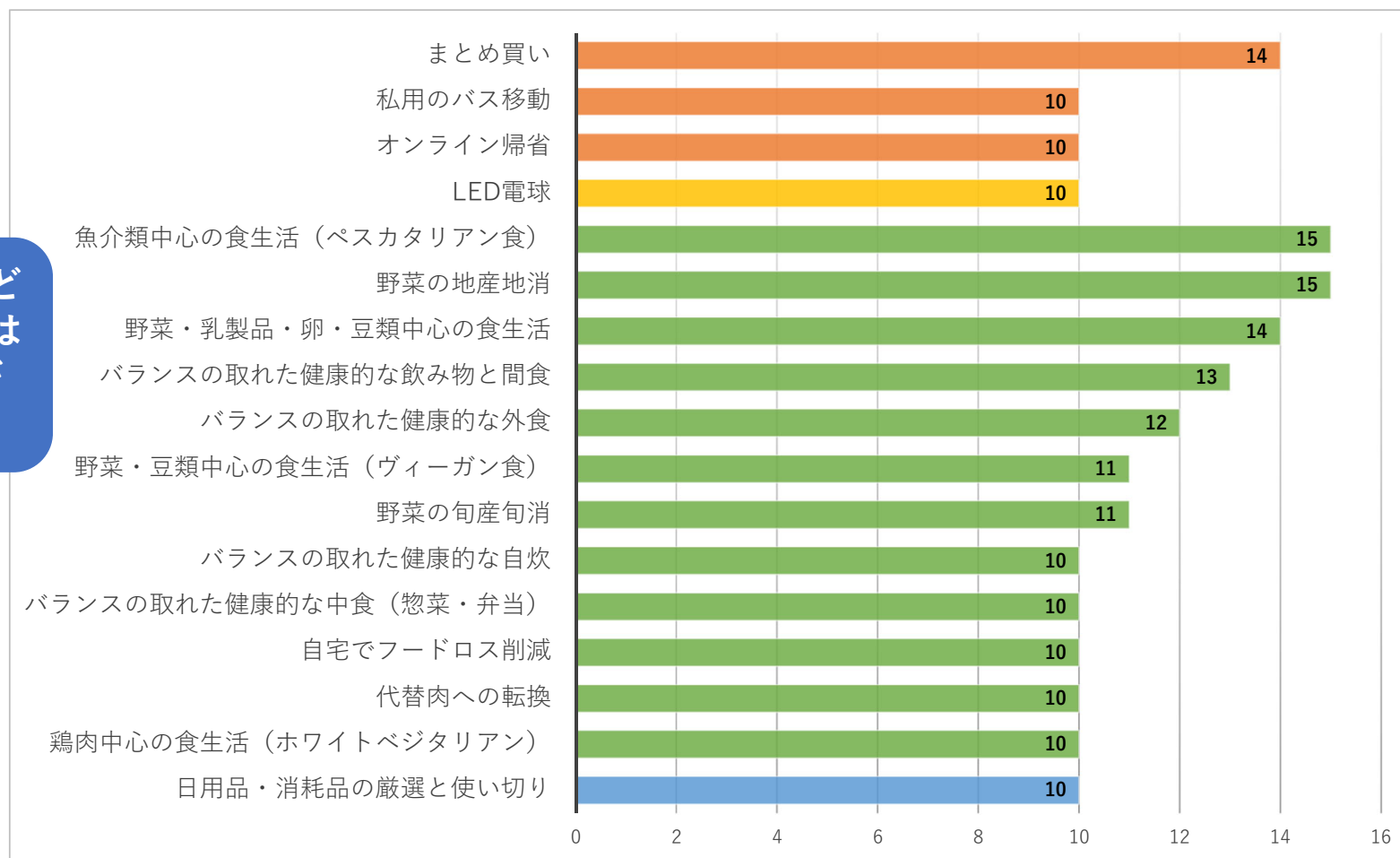


選択肢がないもの、
わかりにくいもの、
近くにないもの、高いもの、
一人では決められないことは
実施できていない

実験 結果

家庭実験でチャレンジできたこと

食や移動、買い物などのちょっとした行動はすぐに変えることができる



行動変革のハードル（家庭実験日誌より）



地域・地域の参加者に特有の条件

京都

横浜

移動

バス・電車は充実
バスは観光客で混雑
時間が予想できない
カーシェア拠点が少ない

多くの用は徒歩圏で足りる
地区によって坂が多い
駅前駐輪場がない
バス路線が減っている

住居

古い家を残したい
景観条例でパネルを置けない

賃貸や集合住宅が多く、改修や電気プランの変更を自由にできない

食

地元野菜は豊富だが
ブランド化で値段が高い



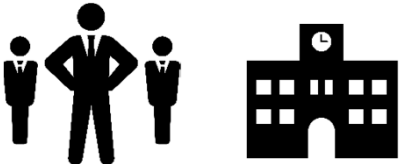

育ちざかりの子供に肉なしは無理
地元野菜はあるが高い

買い物・余暇

観光地だからこそ外に出たい



暮らしの選択肢を左右するもの

<p>地域の自然やインフラ</p> 	<p>入手できる製品やサービス</p> 
<p>職場、学校、地域のルール</p> 	<p>自分や家族などのニーズ</p> 

地域や家族と一緒に考え、試し、学び
変えたいもの、変えられるものを共有

地域や街にあった
1.5°Cライフスタイルと支援策の検討

インタラクティブ・ディスカッション 「市民と地方自治体の今後」

甲斐沼美紀子

IGES研究顧問

柳下正治

環境政策対話研究所代表理事

山口泰暉

脱炭素かわさき市民会議 参加ユース

IGES持続可能な消費と生産領域

司会：渡部厚志

インタラクティブ・ディスカッション 「市民と地方自治体の今後」

- 1 市民が熱意を持って気候変動対策の議論に参加するためのポイントは？
- 2 市民が話し合った成果を実現するには誰と協力し、どんな行動をとると良い？

ご参加の皆様からもチャットで質問をお寄せください